

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373200298		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホームびっちゅう		
所在地	岡山県高梁市備中町平川6385-10		
自己評価作成日	平成30年11月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kani=true&JkgvoScd=3373200298-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成30年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで季節感も十分感じられる天空の里平川に当事業所は建っている 花 野菜づくり環境整備職員と共に和気あいあいと共同作業をしている 天気の良い日は散歩がてら金魚のえさやり ドライブに出かけ気分転換を図っている 時にはテラスでティータイムを楽しんでいる 季節の行事も取り入れ地域住民に温かく見守られ楽しくのんびりとした生活が出来ている 利用者 職員共に落ち着ける場所となるよう工夫しながら日々頑張っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間部に在る事業所の利用者は、ほとんどが地域の人である。季節の移り変わりや気温、新鮮な空気など住み慣れた環境は、利用者に安心とやすらぎを与えている。地元の職員が多く働いているので、共通の話題も多い。職員同士は仲が良く、勤続年数も長い。管理者は、働きやすい環境作りにも努めている。平均年齢が高い職員の中、近頃若年者が入職してくれた。不安にならないよう、職員を通じて地域の若年者をスカウトしてもらっている。公設民営のため、毎年経営面での報告も市へ行われており、信頼がおける運営をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアが出来るよう努力している	7項目ある基本理念を折に触れ議題にし、周知に努めている。特に「健やかに安心して生活できるケア」に力を入れ、管理者は医師や看護師から得た知識を職員へ教え、健康維持に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事やイベント等参加している 地域の店で食品 燃料等購入している	できる限り地元の店を利用している。以前は「渡り拍子」を見学しに行っていたが、今では事業所まで訪れてくれる。毎年地元の有志の人が、年末に大掃除に来てくれ、その後利用者とおしゃべりをしてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで支援の様子などを伝えている 会議に入所者も参加し状況を見てもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況などを報告したり話し合う中でサービスの向上に努めている	事業所の取り組みを伝え、要望や意見を聞き、サービス向上に努めている。参加者が要望を市の担当者へ伝えることもある。また利用者も参加してくれているので、地域の人と交流する機会にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政の担当者2名に毎回参加頂き強力関係を築いている	事業所は公設民営のため、毎年市に報告をしているが、今年から話し合いの場を設ける予定である。設立から14年が経過し、老朽化に伴う修繕が必要となっているので、市と協議しながら対応をしていく。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関してはほぼ理解しているが業務上やむをえない場合は玄関の施錠はしている 家族には理解を求めている 年2回の研修を行っている	身体拘束をしないケアを実践している。山間部に事業所が在るため、玄関は施錠をしているが、利用者が「外へ出たい」と言えば、対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年二回勉強の機会を設けている 小さな不適切ケアに関しても注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設け学んだり話し合ったりしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	細かな疑問点や気になることなど尋ね話し合い理解してもらえるように努力している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に本人の状況は話をさせてもらっている 遠方や来れない方には電話にて機会を設けている	面会時に「手芸を引き続きやらせて欲しい」「ひっこみじあんだから声を掛けて欲しい」などの要望を聞き対応をしている。家族との信頼関係を築くため、一言二言で終わる内容でも、電話連絡で確認をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と管理者の意見交換は日頃より行っている 月に一度ミーティングを行い意見交換をしている	管理者は、職員とコミュニケーションを図り、愚痴を含めしっかりと話を聞く姿勢で対応している。職員から言われた提案は、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	徐々にではあるが環境 条件が整備されているように感じる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修やミーティングが義務のように推奨され学ぶ機会が増えてきている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のGH会議では情報交換や相談が出来ている 2月に一度定期的に本部の統括者と面談を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は特に本人と寄り添い声掛け傾聴し不安を取り除くよう努める事で信頼関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話に耳を傾け出来る事は実践している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	広い視野で対応できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の話に耳を傾けるようにしている 思いに沿えるよう努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の現状を理解してもらえよう話をして いる 家族にも協力を仰ぎ全員で支えて行 けるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方は時間のある時に面会に来られて いる 地域の方には面会をお願いをする事 もある	事業所は山間部に在るが、家族はよく訪れて くれている。馴染みの関係が途切れないよ う、利用者の近所に住んでいた人に、職員を 通じて「〇〇さんが喜ぶから遊びに来て」と声 を掛けてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者の性格や相性なども把握に努め臨 機応変に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る事は支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意見や希望があれば聞いている 情報の共有や職員会議等で対応を検討している	利用者と話をする時間を作り、思いを聞くように努めている。職員が一方的に決めず、利用者に「何をしますか」と尋ねている。皆で行うレクリエーションも無理に参加を求めず、自由に過ごしてもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース情報以外でも職員同士の情報交換など個別ケアに繋がるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握はしている 個々にあった方法で支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な情報は共有し意見交換している	個別カンファレンスは、できるだけ全員出席してもらい、職員から利用者の課題を出してもらい、目標を立てている。本人や家族には、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の業務職員会議などで情報を共有し実践に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟性を持って対応するよう心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なるべく把握するように努め実践につながるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回往診に来てもらっている 緊急時には家族に連絡し対応している	近隣に在る平川診療所は週2日しか開業していないが、成羽病院の系列のため、情報提供を互いにしてくれている。家族が行けない場合は、職員が受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問介護に来てもらっている 個別相談やアドバイスをもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のDr CW Ns 等と情報交換を行い関係構築に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明している 地域の基幹病院や主治医と連携を図るように努めている	事業所は山間部に在り、看護職員が居ない為、急変時の医療提供が難しい。そのため、入居時に介護度が重くなったら他施設へ転居してもらうように話をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当AEDの使用方法等の指導をもらっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を開いている 地域の消防団の情報も収集し連携がとれるように努めている	職員の夫が元消防団のOBなので、何かあった場合はそこへ連絡し、地域への協力要請をもらう段取りになっている。出火場所を変更しながら、避難訓練を実施している。備蓄もしている。	市へ避難経路にスロープ設置の依頼を頼んでいる。実現に期待を寄せる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け対応に注意し努力している	利用者の自尊心に配慮した対応に努めている。居室に入るときはノックをするように努めている。汚れた下着を隠される利用者には、居室に居ない頃を見計らって下着を洗濯して戻している。	人生の先輩として、敬意を払った言葉かけをしているが、たまに大声になることもあるので、常に意識しながらの声掛けに努めて欲しい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを傾聴しなるべく自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで過ごせるよう心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには気を配っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を感じられるものの提供や個々の力量により共同作業をしている	利用者の希望にそった献立にしている。麺好きの利用者が入居し、麺のメニューを増やした。最近パンが好きな利用者が入居した為、パン食を増やそうと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分など個別の状態に合わせた支援となるように心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた方法で毎食後支援している 義歯洗浄も週2回している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛け誘導にて支援している 残存能力を生かし出来る事は自分でしてもらう様にしている	排泄チェック表を確認しながら、トイレへ誘導している。立位が保てる利用者には、トイレのガラス越しから安全確保に努めている。パットをなかなか交換されない利用者には、トイレが終わる頃を見計らって、声掛けをさせてもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動や水分補給 食事に配慮している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせて支援できるようにしている	異性介助を嫌がる男性利用者には、男性職員が出勤してから入浴支援をしてもらっている。羞恥心から陰部を隠す利用者には、タオルで隠す配慮をしている。湯船に浸かりたいと言えば、二人介助で対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた室内温度や寝具などで対応している 状況に応じて休息できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を身辺におき確認をとっている 誤薬が無いよう複数の職員で確認し合っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者全員で楽しめるようなレクリエーションを心掛けている 気分転換にもなる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じてもらえるよう散歩やドライブをしている	地域の行事があれば、できる限り出掛けている。重度化し、歩けなくなっているため、下車するのは難しいが、車窓からの景色を楽しんでもらっている。外食には毎月行くように努めている。本を取りに自宅へ連れて帰ってあげる利用者も居る。	利用者が重度化し、外出する機会が減少しつつある。事業所周辺の散歩など、外出する機会が増えることに期待を寄せる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持支援は行っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により手紙の支援はしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花飾りつけなど心地よく過ごせるよう工夫している	市が建てた事業所は、空間が贅沢に取られ、天井も高く圧迫感がない。夜間トイレへ行く時、眩し過ぎないように、蛍光灯の明りを工夫している。居間の窓からは、山々の季節の移り変わりを感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラス ホールで気ままに過ごせるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ好みの雑誌等持ち込まれ自由に過ごされている	トイレ設置の居室が4部屋あるので、利用者の残存能力に合わせて部屋を変更している。居室にテレビが無いので退屈しないよう、事業所にある机を持ち込み塗り絵を楽しんでもらっている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要時には居室やトイレに目印等設置し安全に配慮した工夫をしている		